

中華料理業の現況について

連合会名 全国中華料理生活衛生同業組合連合会

1. 業界（組合員）の経営環境について

業界（組合員）の経営資源の強み

- ・「人」 組合員の中では親族又はパート従業員による経営で家族的雰囲気の中で効率的によき人材を活用している。企業経営体の店舗でも優秀な人材が確保され経営を支えている。
- ・「もの」 家賃、厨房設備等ランニングコストの掛かるものが多すぎると、ランニングコストが経営を圧迫するが、組合員はバランスの取れた形でものを所有している。
- ・「かね」 給与、備品を購入する、水道光熱費等で出費に対応する金の配分ができ資金調達ができる。（日本政策金融公庫活用）
- ・「情報」 業界に関する情報は厚労省はじめ関係機関また会報の提供により取得できている

業界（組合員）の経営資源の弱み

- ・「人」 コロナ禍、円安の影響により従業員の削減を図った。今日では人手不足が生じ募集を実施しているが、特に中華は3K職場なのか応募者が皆無と言ってもおかしくない状況
- ・「もの」 諸設備の老朽化顕著、売上減少で更新資金調達（返済を考えると）できず
- ・「かね」 コロナ禍、円安の影響売り上げ減少それに加え原材料の高騰、営業者の高齢化で閉店を選択する状態・・・以上が組合員減少の要因

業界（組合員）を取り巻く環境（競合、顧客、マクロ環境など）の良い状況

- ・「競合」 経営に競合はつきもの。自店特有の製品を開発、客層の狙いどころ、などを分析し対応できる。
- ・「顧客」 コロナ禍での行動制限が緩和され客足が戻りつつあるが最盛期と比較すればまだまだの状態、常連の客離れもある状態。
- ・「マクロ環境」 全国旅行支援策、入国制限緩和で若干ではあるが良い方向へ向かいつつある。

業界（組合員）を取り巻く環境（競合、顧客、マクロ環境など）の悪い状況

競合、顧客（人の流れ）円安に加え、材料、燃料、光熱費等などが大幅な値上げは組合員にとって間接的に影響のある外部環境によるもので、創意工夫、経費削減で解決できるものではない。組合員各自で制御できるものでない。
一刻も早く経済の立て直しを政治的に解決してほしい。目に見える支援を。

2. 振興指針に定められた事業の取組状況等

組合で策定する振興計画の作成に当たっての指導、振興計画の取組状況等の把握

1. 組合で策定する振興計画の作成に当たっての指導
厚労省から示された振興計画作成事項ごとに補足説明書配布また必要に応じて個別指導している
2. 振興計画の取組状況等の把握
年度末に実施状況の報告書をもって把握している

組合への支援事業の取組状況

組合事業推進に際して、取り組み方や具体的な推進方法について、可能な限りアドバイスをしている。例えば

1. 「消費者利益の増進及び商品の提供方法に関する事業」では
中華の日、ラーメンの日普及推進・傷病保険加入促進
2. 「営業者及び従業員の技能向上に関する事業」では
料理コンクールへの参画推進
3. 「従業員等の福祉の充実に関する事業」では
中華料理全国大会への参加
4. 「食育、食の安全への関心の高まり及び健康志向等への対応に関する事業」では
「HACCP の考え方」冊子を全組合員に配布

特に成果の上がった事業（取り組み）

- ・「営業者及び従業員の技能向上に関する事業」では
料理コンクールへの参画推進
- ・「食育、食の安全への関心の高まり及び健康志向等への対応に関する事業」では
「HACCP の考え方」冊子を全組合員に配布
- ・香川県組合では、組合の活性化と新規組合員の獲得を目指し、行政を巻き込んで特産品の開発に取り組んだ結果、県産品ブランドとして「讃岐餃子」が完成した。完成品の発表には、地元をはじめ、大手マスコミも参集。TVのニュースや新聞、グルメ雑誌、ヤフーニュースにも採り上げられ、話題となった。その結果「讃岐餃子を売りたい」という店舗が数店あり、組合員の獲得にも繋り、また、同じ四国の高知・愛媛組合も香川組合の盛り上がり刺激を受け、組合の活性化に結びついている。

取組が難しい事業

・ I T 関連推進事業

組合員の老齢化が進み、スマホやインターネット、SNS等について、仕組みの理解や機器の取扱いも困難と感じる人が多く、推進が難しい。

改善方法

- ・ 組合単位では、パソコンやタブレットなどを所有していないケースも目立つ。改善策としては、組合単位の勉強会などで、実践知識の吸収を図る機会を増やしたい。
- ・ 組合単位としては、購入資金が無いことも一因なので、大幅な購入助成制度があると前進する一助となると思われます。